## 令和7年度

	令和:	7年度															東	北地ス	5整備月	哥 /	新技術	5活用	評価会	義
		開発目標									ź	经済性の	の向上	安全性	生の向」	Ł								
	新技術登録番号			QS-22	20030-	VE			区分						品				有用な	技術の位	位置づけ		-	
N		分類										± <u>T</u> -												
E T		新技術名						(H	ンプトラ			ラックの						+ <b>4</b> ≷ <b>1</b> ⊔ 3	t Z \					
I S	比	:較する従来技術						(タ.	ノノトフ									ואינה ו	<b>下る</b> )					
5 情		(従来工法)								1欠	設足場	を設置	して人	カでの	ンート	数設・排	以去							
報	新技	術の概要及び特徴	本技術は、土砂運搬に関する技術である。従来は人力でダンプトラックの荷台にシートを掛けていたが、本技術を適用する事で運転席にいながら 自動で荷台にシート掛けが出来る為、転落事故の解消、コスト削減などの効果が期待できる。																					
			活用効果調査結果により従来技術に比べ優れる。																					
			【施工時評価】 ・ な、は、か、シフテル道 3 歩が必要でなるが、作業手関・1 昌削速ができ、経済性が向上する																					
活用効果評		所 見	経済性:システム導入費が必要であるが、作業手間、人員削減ができ、経済性が向上する。																					
			エ 程: 自動でシート敷設が出来るため、日当たり施工量が増加し、作業時間が短縮する。																					
			安全性: 荷台へ上がっての高所作業が必要がないため墜落転落の危険性がなく、安全性が向上する。																					
			施 エ 性: 運転席から開閉ができ、シート着脱の自動化により土砂運搬の作業効率が向上する。																					
	次	回以降の評価に	01 + + 10															項目の平 版(従来)						
		する視点と評価の		活用効果調査の結果、活用現場の違いによる大きな差異は認められないため、情報種類記号を「-VE」とし、今後の活用調査、事後評価は実施しないものとする。													従来技術(従来工法)(点)の比較 経済性							
評価		必要性																	A					
																			:	環境			<b>&gt;</b>	程
		留意事項																					/	
																			_	<b>包工性</b>		1	则,	品質・
	,-																		, h	他工性			H	法来形
		舌用効果調査表 における																		を技術(従	*******	安全性		
	2	改良点及び要望 										_							安全性 一 新技術					
		1 道路改良工事							北海道										ト敷設・				合評価技	術提案
		2 河道掘削外コ 3 区画整理工事							北海道開発局 北海道開発局						場を設置して人力でのシート					B			術提案	
		<ol> <li>3 区 画 整 理 工 引</li> <li>4 河 道 掘 削 工 引</li> </ol>									(従来技術:{仮設足場を設置して人力での (従来技術:{仮設足場を設置して人力での										白計 脚投	例提来)		
		5 道路改良工事						北海道開発局 北海道開発局			(従来技術:{仮設足場を設置して人力での										合評価技	術提案		
		6 トンネル工事						中部地方整備局 北海道開発局 北海道開発局			(従来技術: (仮設足場を設置して人力でのシー (従来技術: (仮設足場を設置して人力でのシー (従来技術: (仮設足場を設置して人力でのシー (従来技術: (仮設足場を設置して人力でのシー					のシー						提案)		
活用効果調		7 河道掘削外口														のシー	一卜敷設・撤去]) 施工者選定型(総合評価技術				提案)			
		8 護岸外工事					のシー									合評価技					術提案			
	対象工事	9 整備工事						中部地方整備局			(従来技術:{仮設足場を設置して人力でのシー					のシー	ト敷設・	撤去})	施工者	選定型	(契約後	提案)		
												.B												
									•															
査	_																							
結果		ケース番号および年度	1	2	3	4	5	6	7	8	9												項目の	従来技術 (従来エ
	ij	目	R6	R6	R6	R6	R6	R2	R5	R7	R5												平均(点)	法)(点)
	施工時	経済性	В	В	В	С	Α	В	В	В	-												В	С
		工程	С	С	В	В	Α	Α	Α	В	В												В	С
		品質·出来形	С	С	С	С	С	С	-	С	_												С	С
		安全性	В	A	A	В	A	A	Α	В	Α												A	С
	評価	施工性	В	C	В	В	A	В	A	В	A												В	С
									_ A															
		環境	С	В	С	С	С	С		С	В												С	С
		その他	-	-	-	-	-	-	-	-	_												-	_
	総合評価点		B B B B				В	В	Α	В	В	IBA(-1							De	B C				
			今後も是非活用したい活用を検						討したい			易合によっては活用 することもある			技術の改良を強く望む			Α	慢位性	Eにおける判定 従来技術より大幅に優れる				
		後、当該技術を活用出来る 事に活用したいか	4.40					EOW.				69/			600			В		従来技術より優れる				
			44%					5	60%			6%			0%			C     従来技術と同等       D     従来技術より劣る						
	追跡	・調査の必要性											無	l										
		追跡調査												-										